

授業科目	呼吸発声系医学（呼吸発声発語系の構造、機能、病態）				
担当者	本多知行・他				(オムニバス)
専攻(科)	言語聴覚専攻科	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

嚥下障害分野：嚥下障害の臨床に必要な医学的知識および支援のあり方について学ぶ。(本多)
 音声障害分野：音声障害の基礎及び臨床について、医学的な観点から講義を行う。(講師非公表)

■ 到達目標

嚥下障害分野：嚥下障害の理解を深め、人間の根源的欲求である「口から食べる」という QOL の向上を目的として、言語聴覚士が支援できる技術と考え方を習得する。(本多)
 音声障害分野：音声障害のリハビリテーションを行う際に必要となる耳鼻咽喉科学的知識を習得する。(講師非公表)

■ 授業計画

- 第1回 嚥下障害の理解のために必要な解剖・生理 (本多)
- 第2回 嚥下障害の理解のために必要な評価と訓練1 (本多)
- 第3回 嚥下障害の理解のために必要な評価と訓練2 (本多)
- 第4回 嚥下障害におけるチームアプローチと関連事項 (本多)
- 第5回 偽(仮)性球麻痺タイプの嚥下障害の特徴とアプローチ (本多)
球麻痺タイプの嚥下障害の特徴とアプローチ
- 第6回 変性疾患の嚥下障害に対する特徴とアプローチ (本多)
- 第7回 嚥下障害の重症度分類と最近の話題 (本多)
- 第8回 呼吸器の解剖 (講師非公表)
- 第9回 喉頭の解剖 (講師非公表)
- 第10回 発声の仕組み (講師非公表)
- 第11回 喉頭の検査 (講師非公表)
- 第12回 音声外科の手術法 (講師非公表)
- 第13回 音声障害をきたす重要な疾患の診断と治療：声帯粘膜の異常など (講師非公表)
- 第14回 音声障害をきたす重要な疾患の診断と治療：腫瘍性病変など (講師非公表)
- 第15回 音声障害をきたす重要な疾患の診断と治療：神経性疾患など (講師非公表)

■ 評価方法

筆記試験100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業内容を、教科書と配布資料をもとにして復習しておいてください。

■ 教 科 書

書 名：言語聴覚士のための音声障害学
 著者名：大森孝一
 出版社：医歯薬出版

■ 参考図書

書名：「摂食・嚥下リハビリテーション」第2版

著者名：金子芳洋

千野直一監修

出版社：医歯薬出版

書名：「嚥下障害の臨床」第2版

著者名：日本嚥下障害臨床研究会監修

出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

第1～7回の内容は遠隔講義で実施。第8～15回については対面講義を予定しているが、新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

■ 講義受講にあたって